

## 水管理で健全な稲を育てましょう！

- 浅水管理（2～3cm）で地温を高め、分げつの発生を促しましょう。
- 目標茎数が確保できたら、中干しをしましょう。
- 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分しましょう。

### 1 浅水管理について

- ・ 2～3cmの浅水管理をし、分げつの発生を促進させましょう。下記の表を参考に茎数の確保をしましょう（表1）。
- ・ 気温が15℃以下の低温時には、葉先が出る程度の深水管理をしましょう。

表1 6月中に確保すべき品種ごとの目標茎数

品種	m <sup>2</sup> あたり茎数（本）	株あたり茎数※（本）
いわてっこ	310～380	18～22
あきたこまち	370～400	21～23
たわわっこ	220～260	13～15

※坪あたり60株植えの場合

### 2 中干しについて

- ・ 目標茎数に達しましたら中干しをしましょう（表1）。
- ・ 中干しをすることで根の活力が維持され、登熟を良好にする効果があります。
- ・ また、稲の伸びすぎを防ぐことで倒伏の防止にもつながります。



図1 中干しの目安  
（軽く踏んで足跡がつく程度）

### 3 取置苗の処分について

- ・ 取置苗はいもち病の伝染源になる恐れがあります。直ちに処分しましょう。

※中干し以降の管理については、6月27日の調査実施後にお知らせします。

※このような情報をタイムリーに入手することに役立つ、メール配信をしています。ご自身のメールから ce0026@pref.iwate.jp（普及センター組織アドレス）まで「氏名」、「住所」、「電話番号」を送信していただければ登録できます。ぜひご利用ください。

お問合せ先：JA 新いわて久慈営農経済センター（電話 0194-52-1318）  
久慈農業改良普及センター（電話 0194-66-9683）